

# 観光振興における道の駅の拠点性

## - 山口市の道の駅を中心とした周遊地に関する考察 -

齋藤英智

### 1. はじめに

近年、地域コミュニティに根ざした観光振興のあり方が重視されるようになってきている。小林ほか（2010）では、地域住民の暮らしや生活文化を対象としたコミュニティへの関心、観光資源となりうる地域資源を保全するコミュニティの役割、そして、地域への社会的・経済的効果を受けとめるコミュニティの必要性をあげている。

地産地消や農商工連携、6次産業化など、地域コミュニティに効果をもたらすためのさまざまな取り組みがなされており、それを観光と結び付けて地域の活性化を図るという方法はますます重要となっている。人口減少や高齢化による経済活動の低迷に直面する地域において、農林漁業を中心とした雇用創出と地域経済活性化の方向は、大規模な工場誘致の危うさが露呈した今日において、大いに期待される場所である。農林水産資源を活用した雇用や所得の創出は、とりわけ中山間地域において重点的課題となっている。これらの期待に応える機能を兼ね備えた施設として注目されるのが道の駅である。これまでの研究として、道の駅に備えられた機能や地域活性化の手段としての役割のほか、道の駅の取り組み事例、売上高や集客数などの調査は数多く見られるものの、観光振興、とりわけ周遊行動において道の駅がどれだけの拠点性を発揮しうるのか、またその可能性を持っているのかを明らかにしているものは数少ない<sup>1)</sup>。

---

1) 主な道の駅の2008年度の売上高と集客数の調査結果は、日本経済新聞社産業地域研究所（2009）『日経グローバル』にまとめられている。そのほか、道の駅の取り組み事例については、関（2011）をはじめ多数ある。

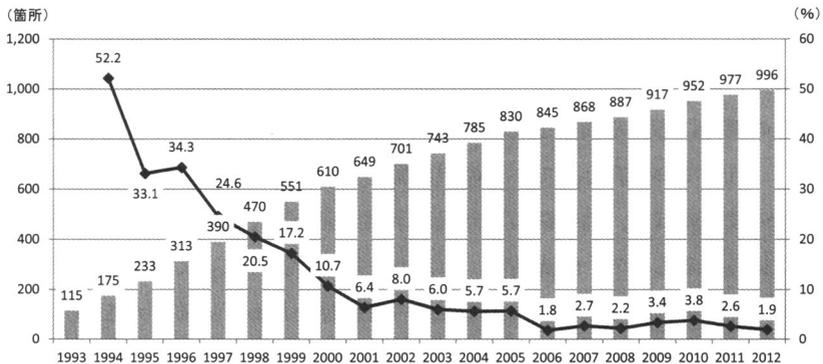
本稿では、道の駅が地域コミュニティにおける観光振興の拠点となりうるのかについて、山口市の道の駅を対象として考察する。利用するデータは、山口市経済産業部観光課の行った観光動態アンケート調査の結果であり、山口市内の道の駅の訪問者が他にどの観光地を周遊しているかを分析し、道の駅の拠点性とその可能性について考察する。

## 2. 道の駅の機能

道の駅は、1993年に国土交通省道路局によって登録が開始された「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域の連携機能」の3つの機能をもつ施設である。道の駅は、一般道路利用者の休憩のための空間であるとともに、道路利用者や地域住民のための沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を発信する施設であり、道の駅をきっかけとして地域が連携し、地域づくりを共に行うための施設とされている<sup>2)</sup>。

図1は、全国における道の駅の累積登録数と対前年増加率の推移を示した

図1 全国における道の駅の累積登録数と増加率の推移  
(登録箇所数：左目盛，増加率：右目盛)



資料) 国土交通省道路局「道の駅 沿革」([http://www.mlit.go.jp/road/station/road-station\\_hist.html](http://www.mlit.go.jp/road/station/road-station_hist.html))より作成。

2) 道の駅の概要や設置経緯、整備方式などについては、国土交通省道路局のWebサイト「道の駅」をはじめ、橋本(2011)、熊野(1996)を参照されたい。

ものである。1993年4月に103箇所がはじめに登録された後、年々増加し、2004年に1箇所が抹消されたものの、2012年9月現在996箇所となっている。2000年代に入り増加率は10%をきり、2000年代後半には2%前後でやや落ち着いているものの累積登録数は増加し続けている。

近年では、3つの基本的な機能に加え、地域で生産された農産物や特産品を販売する付加的な機能を持たせる取り組みも盛んになっている。農産物直売所、農産物加工場、農村レストランの3点が主な機能として加わり、観光対象にもなって地域振興の一翼を担っている。観光行動は、必ずその地へ赴かなければ成立しない行動であり、観光は「見えざる輸出」と捉えられるように、消費者側から見れば、飲食に使用される食材や料理を観光客自らが輸送費を拠出することによって購入していることになる。上述の機能を持たせて、地産地消を推進しながら地域外の住民にも提供していくことは、輸送コスト削減によって競争力を高めるのみならず、観光の特性とも一致して、移輸出産業としての役割も担うことになる。

農産物を中心とした地産地消の取り組みは全国各地で行われているが、地域内では学校給食や、飲食店、直売所での取り組みが多いとされる。その直売所の形態は、沿線、無人、道の駅などがあげられる<sup>3)</sup>。農産物直売所は、全国で約1万3千箇所あるともいわれており、道の駅の数と単純に比べてもその数は10倍以上になる。直売所では、生産者自らが価格設定を行えるシステムが多く取り入れられ、スーパーなどに比べて2~3割高いといわれるが、それでも近年の安全安心といった消費者の嗜好と相俟って、収入増につながるケースが多い。また、POSシステムを導入して、販売状況がダイレクトに生産者にフィードバックされる仕組みも導入され、生産、販売意欲も旺盛になっているとされる。

多くの農産物直売所も存在する中で、道の駅は直売所にはない機能も有しており、観光地としての位置づけも強くしている。道の駅はもはや、道路通過時のトイレ・休憩施設といった単なる通過型施設を超えた目的地型施設へ

3) 佐々木(2002)を参照されたい。

と移行しているといっても過言ではない。また、道の駅は防災、災害対策拠点としても注目されており、休憩、販売、観光などと併せて複合的な機能を持つ施設となっている。道の駅を活用した地域振興の取り組みは、地域住民の生活にとっても基盤となっている<sup>4)</sup>。このような理由から、全国的に道の駅の数が増え続けているものと考えられる。

2012年末現在、山口県内には20の道の駅があり、代表的な事例としては山口県萩市にある「道の駅萩しーまーと」があげられる。萩しーまーとは、萩市観光の拠点施設としても位置づけられていて、萩市の観光情報も発信している。駅長の中澤さかな氏は、観光客が道の駅を拠点として観光地を周遊する様態を「シャワー効果」と称している<sup>5)</sup>。

それでは、山口市内の道の駅ではシャワー効果が働いているであろうか。次節では、山口市内の道の駅を対象として、道の駅の訪問者がどの範囲の観光地を訪れているのかをデータによって把握したい。これらを把握することによって道の駅の周遊観光へ向けた取り組みの政策的課題を抽出したい。

### 3. 山口市内の道の駅と周遊地に関する分析

#### (1) 山口市内の道の駅の概要

2012年末現在、山口市内には、登録順に「道の駅あいお」、「道の駅長門峡」、「道の駅仁保の郷」、「道の駅願成就温泉」「道の駅きららあじす」の5つの道の駅がある（以下、「道の駅」を省いた施設名とする）。

表1は、山口市内の道の駅の概要を示したものである。市内で初めに登録された「あいお」は駐車台数が18台と少ないものの、その後に登録された道の駅はいずれも駐車台数が多く確保されている。また、いずれの道の駅も特産品販売所とレストランを設置しており、「仁保の郷」では特産物加工場も

4) 谷口ほか(2006b)では、道の駅のタイプには「観光対応タイプ」と「地元密着タイプ」があるとしている。

5) 平成24年度JICA地域別研修「アフリカ地域 持続可能な観光開発（コミュニティベースの観光計画立案）」における「道の駅萩しーまーと」への視察研修の際、中澤さかな氏が説明された内容の一部である。

ある。全国的に農産物直売所などが設置されていくなか、山口市内の道の駅でも機能は充実している。

それぞれの立地点は、「あいお」、「きららあじす」が市の南部に位置し、瀬戸内海に近い立地である。「仁保の郷」は市の中央部に位置するものの、市街地から北側の中山間地にある。そして、「長門峡」と「願成就温泉」は市北部の中山間地にあり、「願成就温泉」は島根県との県境に位置する。「長門峡」は、自然景観のすばらしい観光地でもある長門峡という渓谷のそばに位置する道の駅であり、鉄道駅も近い。「願成就温泉」は温泉施設のある道の駅である。

表1 山口市内の道の駅の概要

駅名	登録年月日	駐車場	特産品 販売所	レストラン	その他の施設	最寄鉄道駅 からの距離
道の駅あいお	1994年 8月 4日	18台	○	○	ふれあい広場	大道駅まで4.8km
道の駅長門峡	1997年10月22日	102台	○	○	劇場舞台など	長門峡駅まで0.4km
道の駅仁保の郷	1999年 8月27日	74台	○	○	特産物加工場など	仁保駅まで2.7km
道の駅願成就温泉	2003年 8月 8日	64台	○	○	温泉保養施設	船平山駅まで4.0km
道の駅きららあじす	2004年 8月 9日	95台	○	○	交流館など	阿知須駅まで1.3km

資料) 国土交通省道路局HP「全国「道の駅」マップ」、国土交通省中国地方整備局HP『行ってみませんか?中国地方の「道の駅」、ならびに、Googleマップ・ルート案内(自動車利用)より作成。

このような立地状況のもとで、道の駅が山口市観光にとってどれだけの拠点性を持ちうるのか、山口市観光動態アンケート調査の結果から道の駅の訪問者が他にどのような観光地へ周遊しているか分析する。

## (2) 山口市観光動態アンケート調査の概要

山口市経済産業部観光課は、2009年より「山口市観光動態アンケート調査」を継続して行っている<sup>6)</sup>。主要観光地にハガキ様式のアンケート票を留め置き、回収ボックスや郵送によって回収している。本稿では、2009年から2011年までの3か年において収集されたアンケート結果を用いる。アンケートでは、山口市内での主要な訪問地を質問しており、そのうち道の駅に訪問

6) 筆者はこの事業に携わっており、データ利用の許可をいただいた。

したとする回答者を中心に他の周遊地を抽出する。

アンケート調査は、2009年から2011年にかけて実施されたものであるが、2009年から徐々に調査期間を伸ばしているものの、2009年は6か月間、2010年は7か月間、2011年は8か月間となっている。年を追うごとに調査期間は長くなっており、回収総数も増加している。また、回答者によっては、その道の駅でイベントなどが行われていたため訪問したり、グループでの訪問によって同一の観光地に周遊していたりする場合も考えられるが、これらについて詳細を把握することは困難なため、ここでは調査期間中のデータを機械的に集計することにする。

なお、本稿では便宜上、道の駅や軸となる観光地への訪問を「訪問」とし、その他の観光地への訪問を「周遊」として区分する。

### (3) 道の駅の訪問者数

表2は、調査結果から得られた道の駅の訪問者数を示したものである。アンケート回収総数は、2009年が363枚、2010年が421枚、2011年が730枚となっている。そのうち、道の駅の訪問者数は、2009年が26人(7.2%)、2010年が47人(11.2%)、2011年が42人(5.8%)で、3か年の合計では115人(7.6%)となっている。一人の回答者が複数の道の駅を訪問しているケースもあり、それを延べ訪問者数として集計すると、3か年の合計で144人(9.5%)となっている。なお、複数の道の駅の訪問者は、出発地と到着地の関係で同一人物による二重カウントとなるものもあるが、本稿ではこれを排除せず集計している。理由は、どちらが出発地か不明なことから、後に扱う周遊地の分析において、出発地に関係なく各道の駅を基点とした周遊範囲(平均距離と加重平均距離)を算出するためである。

ちなみに、山口市内の観光地で訪問者が最も多いのは、3年連続で最多訪問数の「瑠璃光寺五重塔」で、3か年の合計は495人(32.7%)である。これらと比較すれば、道の駅の訪問割合は少なく、瑠璃光寺五重塔の約3分の1程度にすぎないものの、市の拠点観光地としても期待される「湯田温泉」と比

べれば、決して低い数値ともいえない。湯田温泉は「旅館・ホテル」と「日帰り温泉、足湯」に分けて集計されているが、これらに匹敵するほどの訪問者数であることがわかる。

なお、2011年の湯田温泉（旅館・ホテル）の訪問者数が多くなっているのは、「おいでませ！山口国体・山口大会」の影響であると考えられる。そのほか、「中原中也記念館」や「常栄寺雪舟庭」,「山口サビエル記念聖堂」などの見学型施設が例年訪問者数で上位に入っているが、湯田温泉に肩を並べる施設となった道の駅には目を見張るものがある。

表2 道の駅の訪問者数と主な観光地の訪問者数

(単位：人)

	アンケート回収総数	道の駅の訪問者数	総数に占める割合	道の駅の延べ(複数箇所)訪問者数	総数に占める割合	瑠璃光寺五重塔	総数に占める割合	湯田温泉(旅館・ホテル)	総数に占める割合	湯田温泉(日帰り温泉、足湯)	総数に占める割合
2009年	363	26	7.2%	34	9.4%	118	32.5%	10	2.8%	27	7.4%
2010年	421	47	11.2%	61	14.5%	157	37.3%	12	2.9%	27	6.4%
2011年	730	42	5.8%	49	6.7%	220	30.1%	71	9.7%	30	4.1%
合計	1,514	115	7.6%	144	9.5%	495	32.7%	93	6.1%	84	5.5%

表3は、道の駅の訪問者の居住地と山口市内での交通手段を示したものである。居住地についてみると、3か年全体で約60%が山口県内の居住者である。山口県内のうち、県央地区の山口市、防府市、美祢市の居住者は20%弱を占めているが、県央地区以外からの訪問者も多い。山口市内での交通手段は、道の駅という性質上半ば当然ともいえるが、自家用車が3か年全体で80%を超えている。なお、道の駅のみならず山口市を訪れた訪問者全体の山口市内での交通手段は、3か年の平均でも自家用車が50%を超えている。

表3 道の駅の訪問者の居住地と山口市内での交通手段

(単位：人)

	道の駅の訪問者数	居住地				山口市内での交通手段				
		山口県内	うち 県央地区	山口県外	無回答	自家用車	レンタカー	タクシー	鉄道	無回答
2009年	26	18	3	8	0	25	0	0	0	1
2010年	47	29	10	18	0	42	0	2	2	1
2011年	42	21	7	17	4	32	5	0	0	5
合計	115	68	20	43	4	99	5	2	2	7
2009年	100.0%	69.2%	11.5%	30.8%	0.0%	96.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%
2010年	100.0%	61.7%	21.3%	38.3%	0.0%	89.4%	0.0%	4.3%	4.3%	2.1%
2011年	100.0%	50.0%	16.7%	40.5%	9.5%	76.2%	11.9%	0.0%	0.0%	11.9%
合計	100.0%	59.1%	17.4%	37.4%	3.5%	86.1%	4.3%	1.7%	1.7%	6.1%

表4は、市内5つの道の駅別の訪問者数をまとめたものである。3か年の合計では、「仁保の郷」が最も多く53人となっており、「あいお」の32人とつづく。道の駅単独での訪問者もおり、「仁保の郷」の単独訪問者が3か年合計でも多く28.3%となっている。5つの道の駅全体では、23.6%が単独での訪問であり、残りの7割強は他の観光地に周遊していることになる。

表4 道の駅別の訪問者数

(単位：人)

	2009年			2010年			2011年			合計		
	訪問者数	単独訪問	単独訪問の割合	訪問者数	単独訪問	単独訪問の割合	訪問者数	単独訪問	単独訪問の割合	訪問者数	単独訪問	単独訪問の割合
「あいお」	12	4	33.3%	7	0	0.0%	13	4	30.8%	32	8	25.0%
「長門峡」	1	0	0.0%	6	1	16.7%	6	1	16.7%	13	2	15.4%
「仁保の郷」	12	5	41.7%	25	3	12.0%	16	7	43.8%	53	15	28.3%
「願成就温泉」	2	0	0.0%	14	2	14.3%	7	4	57.1%	23	6	26.1%
「きららあじす」	7	1	14.3%	9	1	11.1%	7	1	14.3%	23	3	13.0%
合計	34	10	29.4%	61	7	11.5%	49	17	34.7%	144	34	23.6%

#### (4) 道の駅を中心とした周遊地の分析

ここでは、各道の駅を中心とした周遊地を抽出し、道の駅からの距離を算出して、周遊範囲の特性をみる。なお、各道の駅の具体的な周遊地と距離については、本稿末の添付資料を参照されたい。

表5は、各道の駅の訪問者のうち、単独訪問を除く複数地点周遊者が、他の観光地をどれだけ周遊しているかを延べ数で示したものである。「仁保の

郷」から他の観光地への周遊者が多く、3か年合計で55人となっている。また、「あいお」や「きららあじす」も3か年でそれぞれ35人、31人となっており、市の中央部から南部にかけて複数地点を周遊する人が多いことがわかる。これは道の駅と観光資源の分布の関係によるものと考えられるが、因果関係も含めて今後より詳細な分析が必要である。

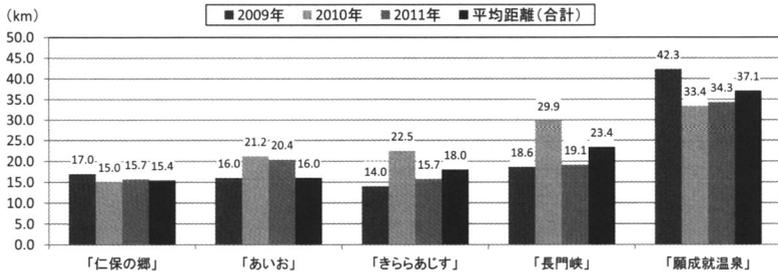
表5 道の駅訪問者の周遊者数と周遊地数

		複数地点 周遊者数 (人)	周遊地数 (箇所)	延べ 周遊者数 (人)
「あいお」	2009年	8	8	13
	2010年	7	5	13
	2011年	9	6	9
	小計	24	19	35
「長門峡」	2009年	1	1	1
	2010年	5	4	8
	2011年	5	5	7
	小計	11	10	16
「仁保の郷」	2009年	7	7	13
	2010年	22	17	30
	2011年	9	6	12
	小計	38	30	55
「願成就温泉」	2009年	2	3	4
	2010年	12	2	15
	2011年	3	4	6
	小計	17	9	25
「きららあじす」	2009年	6	5	10
	2010年	8	6	15
	2011年	6	3	6
	小計	20	14	31
合計		110	82	162

図2は、各道の駅と周遊地との間の道路距離を算出し、各年の平均距離と各年合計の平均距離を示したものである。「仁保の郷」は3か年合計の平均距離が最も短く15.4kmである。この意味するところは、「仁保の郷」の訪問者が他の観光地へ周遊する際の平均距離は、他の道の駅周遊者に比べて短く、比較的近いところを周遊するということである。同じく「あいお」は16.0km、「きららあじす」は18.0km、「長門峡」は23.4km、「願成就温泉」は

37.1kmとなっている。市の北部に位置する立地条件の比較的悪い道の駅では、他の観光地が遠いという事情も考えられるが、逆にいえば北部の道の駅からは遠い観光地でも訪れていると見ることもできる。

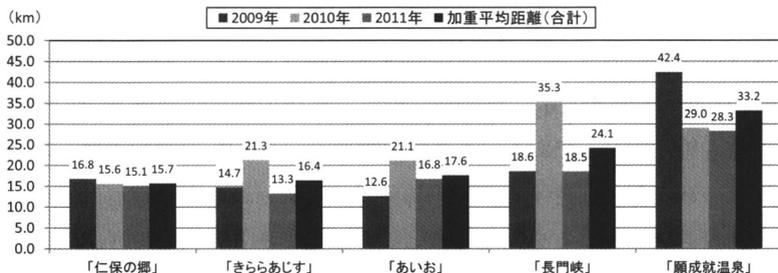
図2 道の駅と周遊地との間の平均距離



注1) 距離は、Googleマップのルート案内より、自動車での一般道利用を想定して算出した。  
 注2) 広範囲にわたる周遊地や場所が特定できない周遊地は、距離の計算から除外している。  
 注3) 以下、平均距離、加重平均距離の算出については、同様の方法で算出している。

図3は、図2で用いた距離に周遊者数を加味して算出した加重平均距離を示したものである。平均距離と同様に「仁保の郷」が15.7kmと最も短く、次が平均距離と入れ替わる形で、「きららあじす」が16.4km、「あいお」が17.6kmとなっている。市北部の道の駅は、平均距離と同様に周遊距離は長く、「長門峡」が24.1km、「願成就温泉」が33.2kmとなっている。

図3 道の駅と周遊地との間の加重平均距離



これらの結果からいえることは、市中央部から南部にかけては比較的観光資源が多く分布することから、あまり距離を移動しなくても他の観光地を周遊することが可能であるという点である。一方で、市北部の道の駅は周辺に観光地が少ないことから遠い観光地まで足を延ばしているということになる。

それでは、この平均距離、加重平均距離は他の観光地と比べてどうか。ここで、市内で最も訪問者の多い「瑠璃光寺五重塔」と「湯田温泉」について、2011年のデータで同様の計算を試みた。

表6は、2011年における上記2つの観光地と他の周遊地との間の平均距離、および加重平均距離を示したものである。各道の駅については、図2および図3における合計の数値と同じであるが、「瑠璃光寺五重塔」は平均距離が4.9km、加重平均距離は3.0kmであり、各道の駅に比べて平均距離は短くなっている。また、湯田温泉（ホテル・旅館）は平均距離が7.6km、加重平均距離は4.9kmであり、湯田温泉（日帰り温泉、足湯）は平均距離が12.4km、加重平均距離は8.2kmとなっている。ここでも各道の駅に比べて平均距離は短くなっている。いずれも山口市を代表する観光地であるが、市中央部に位置し、周辺に観光資源が多く分布していることもあり、各道の駅に比べてその周遊範囲が狭くなっている。

総じて、道の駅の訪問者は、比較的遠い場所にある他の観光地にも足を延ばしており、より広範囲での周遊を促進するためには、道の駅の役割は大きく、道の駅を拠点とした周遊ルートの開発に大きな可能性を秘めているといえる。

表6 2011年における主要観光地と周遊地との間の平均距離

(単位: km)

	「仁保の郷」	「きらら あじす」	「あいお」	「長門峡」	「願成就 温泉」	瑠璃光寺 五重塔	湯田温泉 (ホテル・ 旅館)	湯田温泉 (日帰り温 泉、足湯)
平均距離	15.4	18.0	16.0	23.4	37.1	4.9	7.6	12.4
加重平均距離	15.7	16.4	17.6	24.1	33.2	3.0	4.9	8.2

注1) 距離は、Googleマップのルート案内より、自動車での一般道利用を想定して算出した。

注2) 広範囲にわたる周遊地や場所が特定できない周遊地は、距離(加重平均)の計算から除外している。

表7は、各道の駅から周遊地までの平均距離と主要地点（交通結節点）までの距離との関係を示したものである。サンプル数としては物足りない面もあるが、各道の駅から他の周遊地への平均距離（合計）と主要地点までの距離との相関係数を見ると、湯田温泉駅までの距離との相関係数が0.94、新山口駅までの距離との相関係数が0.93と高くなっている。これが意味するところは、道の駅から周遊している範囲は、ちょうど湯田温泉駅や新山口駅までの距離に近いところまで達しているということである。つまり、道の駅からの周遊ルートの開発において、湯田温泉駅や新山口駅を想定した範囲で設定することが現実的であるということを示している。また、加重平均距離においても、新山口駅までの距離との相関係数が0.94、湯田温泉駅までの距離との相関係数が0.91となっており、同様のことがいえる。

表7 道の駅から周遊地までの平均距離と主要地点までの距離との関係

(単位: km)

周遊地までの平均距離	「仁保の郷」	「あいお」	「きららあじす」	「長門峡」	「願成就温泉」	相関係数
平均距離（合計）	15.4	16.0	18.0	23.4	37.1	1.00
山口市役所までの距離	10.4	27.4	25.1	19.3	43.4	0.80
湯田温泉駅までの距離	14.0	24.1	22.3	22.8	47.0	0.94
新山口駅までの距離	24.4	12.7	10.8	33.2	57.4	0.93
山口宇部空港までの距離	45.3	25.0	14.2	54.1	78.3	0.83
他の道の駅までの平均距離	30.2	34.1	38.9	31.1	49.2	0.82
加重平均距離（合計）	15.7	17.6	16.4	24.1	33.2	1.00
山口市役所までの距離	10.4	27.4	25.1	19.3	43.4	0.77
湯田温泉駅までの距離	14.0	24.1	22.3	22.8	47.0	0.91
新山口駅までの距離	24.4	12.7	10.8	33.2	57.4	0.94
山口宇部空港までの距離	45.3	25.0	14.2	54.1	78.3	0.87
他の道の駅までの平均距離	30.2	34.1	38.9	31.1	49.2	0.73

注1) 距離は、Googleマップのルート案内より、自動車での一般道利用を想定して算出した。

注2) 広範囲にわたる周遊地や場所が特定できない周遊地は、距離（加重平均）の計算から除外している。

上述のことは、逆にいえば湯田温泉駅や新山口駅を拠点として各道の駅への周遊範囲を設定してもよいということでもあるが、湯田温泉（日帰り温泉、足湯）訪問者は、道の駅の訪問者とほぼ同数であることに加え、単独訪問や複数箇所の道の駅を訪問するパターンを考えれば、道の駅を拠点とする方がより大きな可能性を秘めていると考えられる。ちなみに、山口市への訪

問者のうち日帰りの割合は、3か年の平均で34%となっており、宿泊地との連携も考慮されるべきところである。今後は、道の駅以外の訪問者を含めた山口市全体の周遊状況のほか、市外の観光地や宿泊地、満足度との関係による調査・分析も課題である。

#### 4. おわりに

##### (1) 本稿のまとめ

本稿では、道の駅の拠点性を探るために、山口市観光動態アンケート調査の結果を用いて、山口市内の道の駅を中心とした周遊地との関係を考察した。得られたファクト・ファインディングは以下のとおりである。

- ・ 道の駅の訪問者は、湯田温泉に匹敵する数である。
- ・ 道の駅の訪問者の7割強が他の観光地に周遊している。
- ・ 山口市中央部から南部にかけての道の駅から他の周遊地へ周遊する範囲は、市北部の道の駅と比較して狭い。逆に、市北部からの周遊範囲は広い。
- ・ 山口市内の道の駅は、市中央部に位置する2つの観光地（瑠璃光寺五重塔、湯田温泉）に比べて、他の観光地を周遊する際の周遊範囲が広い。
- ・ 山口市内の道の駅からの周遊範囲は、湯田温泉駅や新山口駅までの距離と相関が高く、これらを基準とした周遊範囲の設定が理に適っている。

政策的示唆としては、自動車利用、日帰り訪問の多い山口市においては、まず道の駅に誘客し、飲食、農産物、特産品の販売拠点としたうえで、各道の駅の平均距離（加重平均距離）の範囲内にある観光地の情報を重点的に発信することである。さらに、周遊地として、湯田温泉や山口市中央部にある観光地へ誘導する方策も推進していくべきである。また、自動車利用を前提としつつ、平均距離外の観光地まで周遊範囲をより広くし、滞在時間を延ばす方策を打ち出すとともに、宿泊者の増加に繋げる必要もある。

## (2) 課題

道の駅を観光振興という側面から見た場合、観光対象そのものであったり、周遊の拠点であったりすることは、近年の動向からもはや疑う余地はないであろう。とりわけ、中山間地域の振興にとって重要な施設となっており、人口減少に対応するためにも大いに期待されている。

道の駅の成功例としてあげられる事例を見ると、地域住民向けを主とするか、観光に重きを置くか、どちらかをはっきりさせるべきだという問いも投げかけられている。とりわけ買い物難民の増加が危惧されている中山間地域においては、道の駅がスーパー代わりの日常の買い物の場としても機能している。人口減少社会において、中山間地域のみならず郊外の人口が減少し、自動車利用が縮小していくとすれば、立地場所によっては道の駅が淘汰されることも免れないであろう。道の駅がその名の通り、自動車での利用を前提とした郊外型立地のためである。近年では、都市部（中心部近郊）や交通量の多い国道沿いでの道の駅の開設が増えており、今までに増して中山間地にある道の駅は苦戦を強いられる可能性が高い。都市部の道の駅へ農産物などを出荷する方法も考えられるが、観光振興における道の駅の役割と地域住民のための道の駅のあり方がますます重要性を帯びてくる。

現在のところ、地産地消をはじめとして、農産物直売所やレストラン、農産物加工場などの機能付加によって、農業振興、雇用創出の手段として期待されているが、長期的視点で対策を練っておく必要もある。観光対象であれ、地域住民対象であれ、訪問者の動態を十分に把握し、道路のみならず鉄道駅や物流体制、防災、災害対策などを含め、交通ネットワークを加味した立地点の検討、あるいは、再配置を検討することも重要である。このような機能は道の駅でなくとも、通常の農産物直売所などが担ってもいいのかもしれないが、「道の駅」という知名度とブランド力を大いに活用すべきである。

道の駅の設置者は、市町村または公的な団体（公設）が条件とされ、管理・運営は公営の場合もあるが、多くが自治体からの委託（民間）や第3セクター、指定管理者などで行われている。そのようななかで、赤字経営や自

治体による補助金の有無が紙面などで取り上げられることがある。道の駅の機能をよく考えたうえで、過剰な設備を排除し、コストをかけずに、地域の所得を生み出す運営が求められる。そのような努力にもかかわらず赤字となることもあるであろうが、地域コミュニティの振興、観光振興の観点から、行政が積極的に介入し、支援を惜しまない体制も大事ではないか。それに見合うだけの相乗的効果を道の駅はもたらし得ると考える。

おわりに、観光振興に対する方策を解明していくためには、本稿もそうであるように、データ量の壁に突き当たる。観光動態調査などによるさらなるデータの収集、蓄積が必要である。これによって、道の駅のみならず地域コミュニティへの訪問者がどのような性質を持ち、どのような行動を行っているのか、より先を見据えた地域振興策に繋がる広範囲な分析が可能となる。

## 謝辞

本稿で用いたアンケート調査結果のデータは、2009年から山口市経済産業部観光課の委託により、山口大学経済学部観光経済経営研究プロジェクトが受託している「山口市観光動態アンケート調査」の集計・分析業務の結果を基にしている。同課にはデータ利用に際して快く応じていただきました。厚く御礼申し上げます。

また、この事業は2009年から継続して実施されているが、2009年から2010年にかけては、山口大学経済学部非常勤講師（現三重大学人文学部）の朝日幸代教授が主としてまとめられている。筆者はメンバーの一人として携わっており、2011年からとりまとめを引き継いでいる。朝日教授には、引き継ぎ後も貴重なアドバイスをいただいている。ここに記して謝意を表します。

最後に、藤井大司郎教授は、観光経済経営研究プロジェクトへの筆者の参加を導いてくださいました。心より御礼申し上げます。

(2013年1月31日)

**参考文献・資料**

- ・内田恭彦 (2011) 「道の駅／萩シーマートと地方における新規事業の成功を導いたＩターン人材」 山口大学経済学会『山口経済学雑誌』第60巻第1号, pp.95-116。
- ・菊地剛・谷口尚弘 (2006a) 「道の駅」を活用した地域活性化の考察『日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東)』, pp.825-826。
- ・菊地剛・谷口尚弘・矢野聡恵・中井大志・山口和浩 (2006b) 「北海道における地域活性化としての「道の駅」活用に関する研究」『日本建築学会北海道支部研究報告集』No.79, pp.439-442。
- ・熊野稔・目山直樹 (1996) 「道の駅」の整備動向と施設整備の課題について『日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿)』, pp.381-382。
- ・小林英俊・緒川弘孝・山村高淑・石森秀三編 (2010) 『コミュニティ・ベースド・ツーリズム研究』日本交通社。
- ・齋藤英智 (2012) 「観光振興と地域の活性化」ワイエムコンサルティング『ワイエムビジネスレポート』No.46, pp.2-4。
- ・佐々木輝雄 (2002) 「地産地消の急展開と環境対策への可能性」『日本獣医畜産大学研究報告』第51号, pp.11-23。
- ・佐藤快信・西川芳明・鶴淵鉄平 (2012) 「道の駅の地域振興に関する一考察」『長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要』10巻1号, pp.53-62。
- ・関満博・酒本宏 (2011) 『道の駅／地域産業振興と交流の拠点』新評論。
- ・高野誠鮮 (2012) 『ローマ法王に米を食べさせた男』講談社。
- ・竹重敬典・熊野稔 (2003) 「道の駅」の施設内容と改善方策に関する研究『日本建築学会中国支部研究報告集』第26巻, pp.785-788。
- ・田中荣治 (2008) 「交流拠点「道の駅」の進化と連携」東京市政調査会『都市問題』Vol.99, No.7, pp.80-84。
- ・中澤さかな (2012) 『道の駅「萩シーマート」が繁盛しているわけ』合同出版。
- ・日本経済新聞社産業地域研究所 (2009) 『日経グローバル』No.133 (通巻568号), pp.24-35。
- ・橋本正法 (2011) 「道の駅」の目指したものと、その後』日本地域開発センター『地域開発』vol.558, pp.2-7。
- ・山口大学経済学部観光経済経営研究プロジェクト『山口市観光動態アンケート調査集計・分析報告書』2009年, 2010年, 2011年。

添付資料1 各道の駅と周遊地との間の周遊者数と距離

「あいお」	周遊地	周遊者数 (人)	距離 (km)
2009年	正八幡宮	1	3.0
	道の駅「きららあじす」	5	10.8
	山口きらら博記念・自然観察公園	1	11.2
	山口駐屯地	1	22.9
	湯田温泉 (日帰り温泉、足湯)	1	23.0
	道の駅「仁保の郷」	2	25.0
	秋穂八十八ヶ所お大師まいり	1	-
	子供広場	1	-
	周遊者数計 (周遊地数)	13	8
	周遊地の平均距離	-	16.0
	周遊地の加重平均距離	11	12.6
2010年	国民宿舎あいお荘	1	7.3
	道の駅「きららあじす」	6	10.7
	山口きらら博記念・自然観察公園	1	11.2
	道の駅「長門峡」	3	38.3
	長門峡	2	38.6
	周遊者数計 (周遊地数)	13	5
	周遊地の平均距離	-	21.2
	周遊地の加重平均距離	13	21.1
2011年	国民宿舎あいお荘	1	7.3
	道の駅「きららあじす」	4	10.7
	山口県立美術館	1	22.6
	湯田温泉 (旅館・ホテル)	1	23.0
	道の駅「長門峡」	1	38.3
	コスモス畑	1	-
	周遊者数計 (周遊地数)	9	6
	周遊地の平均距離	-	20.4
	周遊地の加重平均距離	8	16.8
合計	周遊者数計 (周遊地数)	35	19
	周遊地の平均距離	-	16.0
	周遊地の加重平均距離	32	17.6

「長門峡」	周遊地	周遊者数 (人)	距離 (km)
2009年	道の駅「仁保の郷」	1	18.6
	周遊者数計 (周遊地数)	1	1
	周遊地の平均距離	-	18.6
	周遊地の加重平均距離	1	18.6
2010年	道の駅「仁保の郷」	1	18.6
	山口サビエル記念聖堂	1	19.3
	道の駅「あいお」	3	38.3

	道の駅「きららあじす」	3	43.2
	周遊者数計（周遊地数）	8	4
	周遊地の平均距離	-	29.9
	周遊地の加重平均距離	8	35.3
2011年	長門峡	1	0.5
	徳佐りんご園	2	15.5
	道の駅「仁保の郷」	2	18.6
	湯田温泉（旅館・ホテル）	1	22.7
	道の駅「あいお」	1	38.3
	周遊者数計（周遊地数）	7	5
	周遊地の平均距離	-	19.1
	周遊地の加重平均距離	7	18.5
合計	周遊者数計（周遊地数）	16	10
	周遊地の平均距離	-	23.4
	周遊地の加重平均距離	16	24.1

「仁保の郷」	周遊地	周遊者数（人）	距離（km）
2009年	瑠璃光寺五重塔	3	9.7
	山口県庁	2	10.1
	山口県立美術館	1	10.5
	山口サビエル記念聖堂	2	10.5
	道の駅「長門峡」	1	18.6
	道の駅「あいお」	2	25.0
	道の駅「きららあじす」	2	34.4
	周遊者数計（周遊地数）	13	7
	周遊地の平均距離	-	17.0
周遊地の加重平均距離	13	16.8	
2010年	手打ち中華そば侍	1	0.5
	秋川牧園	1	4.4
	常栄寺雪舟庭	1	8.0
	山口駐屯地	2	8.3
	香山公園	1	9.7
	瑠璃光寺五重塔	6	9.7
	山口サビエル記念聖堂	4	10.5
	かんぼの宿湯田	1	11.8
	特産物加工販売所「南大門」	1	12.8
	中原中也記念館	1	13.1
	龍蔵寺	1	16.1
	重源の郷	1	18.5
	道の駅「長門峡」	1	18.6
	長門峡	3	18.9
徳佐（距離：徳佐駅）	1	37.0	

	道の駅「願成就温泉」	3	42.8
	仁保コミュニティセンター	1	-
	周遊者数計（周遊地数）	30	17
	周遊地の平均距離	-	15.0
	周遊地の加重平均距離	29	15.6
2011年	KDDI山口衛星通信所	2	1.2
	瑠璃光寺五重塔	2	9.7
	山口サビエル記念聖堂	2	10.5
	湯田温泉（旅館・ホテル）	2	13.8
	道の駅「長門峡」	2	18.6
	徳佐りんご園	2	34.1
	周遊者数計（周遊地数）	12	6
	周遊地の平均距離	-	14.7
	周遊地の加重平均距離	12	14.7
	合計	周遊者数計（周遊地数）	55
周遊地の平均距離		-	15.4
周遊地の加重平均距離		54	15.7

「願成就温泉」	周遊地	周遊者数（人）	距離（km）
2009年	山口市菜香亭	1	41.8
	龍福寺	1	42.3
	瑠璃光寺五重塔	2	42.7
	周遊者数計（周遊地数）	4	3
	周遊地の平均距離	-	42.3
	周遊地の加重平均距離	4	42.4
2010年	長門峡	11	24.0
	道の駅「仁保の郷」	4	42.8
	周遊者数計（周遊地数）	15	2
	周遊地の平均距離	-	33.4
	周遊地の加重平均距離	15	29.0
2011年	徳佐りんご園	2	10.2
	長門峡	1	24.0
	山口さらら博記念・自然観察公園	1	68.8
	S L やまぐち号	2	-
	周遊者数計（周遊地数）	6	4
	周遊地の平均距離	-	34.3
	周遊地の加重平均距離	4	28.3
合計	周遊者数計（周遊地数）	25	9
	周遊地の平均距離	-	37.1
	周遊地の加重平均距離	23	33.2

「きららあじす」	周遊地	周遊者数 (人)	距離 (km)
2009年	山口きらら博記念・自然観察公園	1	1.5
	正八幡宮	1	10.2
	道の駅「あいお」	5	10.8
	国民宿舎あいお荘	1	13.4
	道の駅「仁保の郷」	2	34.0
	周遊者数計 (周遊地数)	10	5
	周遊地の平均距離	-	14.0
	周遊地の加重平均距離	10	14.7
2010年	山口きらら博記念・自然観察公園	2	1.5
	道の駅「あいお」	6	10.8
	国民宿舎あいお荘	1	13.4
	湯田温泉 (日帰り温泉、足湯)	1	23.0
	道の駅「長門峡」	3	42.9
	長門峡	2	43.2
	周遊者数計 (周遊地数)	15	6
	周遊地の平均距離	-	22.5
	周遊地の加重平均距離	15	21.3
2011年	道の駅「あいお」	4	10.8
	国民宿舎あいお荘	1	13.4
	湯田温泉 (旅館・ホテル)	1	23.0
	周遊者数計 (周遊地数)	6	3
	周遊地の平均距離	-	15.7
	周遊地の加重平均距離	6	13.3
合計	周遊者数計 (周遊地数)	31	14
	周遊地の平均距離	-	18.0
	周遊地の加重平均距離	31	16.4

注1) 距離は、Googleマップのルート案内より、自動車での一般道利用を想定して算出した。

注2) 広範囲にわたる周遊地や場所が特定できない周遊地は、距離 (加重平均) の計算から除外している。

注3) 添付資料2、および、添付資料3についても同様である。

資料2 瑠璃光寺五重塔と周遊地との間の周遊者数と距離（2011年）

	延べ 周遊者数 (人)	五重塔訪問者 (220人)に 占める割合	五重塔からの 距離 (km)
瑠璃光寺五重塔のみ	49	22.3%	-
山口サビエル記念聖堂	56	25.5%	1.7
常栄寺雪舟庭	48	21.8%	2.7
山口市菜香亭	44	20.0%	1.0
中原中也記念館	31	14.1%	3.8
湯田温泉（旅館・ホテル）	18	8.2%	4.6
龍福寺	11	5.0%	1.3
湯田温泉（日帰り温泉、足湯）	9	4.1%	4.6
山口県立美術館	7	3.2%	1.8
一の坂川	5	2.3%	1.4
八坂神社	4	1.8%	0.8
山口ふるさと伝承総合センター	4	1.8%	1.1
洞春寺	3	1.4%	0.4
山口県庁	3	1.4%	1.4
山口大神宮	3	1.4%	1.5
維新公園	3	1.4%	6.1
龍蔵寺	3	1.4%	7.4
山口きらら博記念・自然観察公園	3	1.4%	27.1
亀山公園	2	0.9%	1.8
道の駅「仁保の郷」	2	0.9%	9.7
国民宿舎あいお荘	2	0.9%	29.0
香山公園	1	0.5%	0.1
雲谷庵跡	1	0.5%	1.0
豎小路	1	0.5%	1.2
県政資料館・県会議事堂	1	0.5%	1.3
藩庁門	1	0.5%	1.3
山口県立博物館	1	0.5%	1.8
山口駅前通り	1	0.5%	2.0
山口県護国神社	1	0.5%	2.2
熊野神社	1	0.5%	4.1
高田公園	1	0.5%	4.1
温泉舎	1	0.5%	4.1
乗福寺	1	0.5%	4.5
宮野温泉山口ふれあい館	1	0.5%	6.4
KDDI山口衛星通信所	1	0.5%	9.2
長門峡	1	0.5%	18.9
S L やまぐち号	1	0.5%	-
国体	1	0.5%	-
不明	4	1.8%	-
合計	331	150.5%	-
周遊地の平均距離	35箇所	-	4.9
周遊地の加重平均距離	延べ276人	-	3.0

## 添付資料3 湯田温泉と周遊地との間の周遊者数と距離 (2011年)

湯田温泉 (旅館・ホテル)	延べ 周遊者数 (人)	湯田温泉 訪問者 (71人) に占める割合	湯田温泉駅 からの距離 (km)
湯田温泉 (旅館・ホテル) のみ	23	32.4%	-
湯田温泉(日帰り温泉、足湯)	2	2.8%	-
瑠璃光寺五重塔	18	25.4%	5.3
山口サビエル記念聖堂	11	15.5%	3.1
中原中也記念館	7	9.9%	0.8
山口市菜香亭	4	5.6%	5.3
高田公園 (井上公園)	2	2.8%	0.5
山口県立美術館	2	2.8%	3.1
一の坂川	2	2.8%	3.6
龍福寺	2	2.8%	4.2
香山公園	2	2.8%	4.8
常栄寺雪舟庭	2	2.8%	6.1
維新公園	1	1.4%	2.6
湯田カントリークラブ	1	1.4%	3.5
雲谷庵跡	1	1.4%	4.9
長門峡	1	1.4%	23.2
山口きらら博記念・自然観察公園	1	1.4%	23.8
六畳岩二千年回道	1	1.4%	26.4
S L やまぐち号	1	1.4%	-
国体	3	4.2%	-
不明	1	1.4%	-
合計	88	123.9%	-
周遊地の平均距離	16箇所	-	7.6
周遊地の加重平均距離	延べ58人	-	4.9

湯田温泉 (日帰り温泉、足湯)	延べ 周遊者数 (人)	湯田温泉 訪問者 (30人) に占める割合	湯田温泉駅 からの距離 (km)
湯田温泉 (日帰り温泉、足湯) のみ	6	20.0%	-
湯田温泉 (ホテル・旅館)	2	6.7%	-
瑠璃光寺五重塔	9	30.0%	5.3
中原中也記念館	7	23.3%	0.8
常栄寺雪舟庭	3	10.0%	6.1
長門峡	3	10.0%	23.2
山口サビエル記念聖堂	1	3.3%	3.1
香山公園	1	3.3%	4.8
山口市菜香亭	1	3.3%	5.3
山口市小郡文化資料館	1	3.3%	10.6
特産物加工販売所「南大門」	1	3.3%	26.5
徳佐りんご園	1	3.3%	38.3
不明	2	6.7%	-
合計	38	126.7%	-
周遊地の平均距離	10箇所	-	12.4
周遊地の加重平均距離	延べ28人	-	8.2